



「子供が水しか飲めなくなる」 学童のおやつ廃止で保護者反発 江戸川区

2013.2.26 15:36

東京都江戸川区が、児童の放課後対象事業「すくすくスクール」で出していた補食を平成25年度から廃止することを決め、保護者の間に反発が広がっている。区は廃止によって25年度で約5500万円の財政削減が見込めるとしているが、保護者側は「他にも無駄遣いはある。子供を狙い撃ちにしている」などと訴え、廃止の撤回を区に求めている。

すくすくスクール事業は平成17年、それまであった小学校1～3年生を対象にした学童クラブを、1～6年生対象に拡大させてスタートした。対象時間は最長で午後6時まで。

補食は、学童クラブ時代のおやつを制度変更したもので、希望者におにぎりなどを出している。約1300人の児童が補食を希望している。

補食の費用は実費で、希望者から月に1700円徴収。ただ、生活保護世帯など就学援助家庭の児童には無料となる。区によると、このための助成が年に約1千万円に上るほか、補食を実施するための人件費が年間約4500万円かかるという。

区は、財政削減効果のほか、（1）補食によってカロリーの過剰摂取になる（2）食物アレルギーのある児童が増え管理が大変（3）補食を希望しながら食べない児童もあり、食材が無駄になる-などを廃止理由として挙げている。

一方、保護者側は「補食がなくなると、子供は給食を食べてから午後6時まで水分しか取れなくなる」などと反発している。

「廃止するなら子供がおやつを持っていけるようにしてほしい」との要望も出したが、区側は「すくすくスクールは学校施設を使っている。学校におやつを持っていくことになるので認められない」としている。

さらに、区は「補食が必要なら、保護者側が手当てするようにしてほしい」とするが、働いている保護者が多いため難しいのが現状。両者の意見は平行線をたどっている。

© 2013 The Sankei Shimbun & Sankei Digital

© 2013 Microsoft |  Microsoft